

For Teachers of the Japanese Language



TIPS 77

日本語教師のための

TIPS 77 ③

音声教育の実践

河野俊之 著

Toshiyuki Kawano

シリーズ監修

當作靖彦・横溝紳一郎



くろしお出版

For Teachers of the Japanese Language



TIPS 77

日本語教師のための

TIPS 77 ③

音声教育の実践

河野俊之 著

Toshiyuki Kawano

シリーズ監修

當作靖彦・横溝紳一郎



くろしお出版

TIPS シリーズの刊行にあたって

「日本語教師のための TIPS 77」シリーズは、日本語教育に関わる方々が、日本語教育のいろいろな分野の知識を整理したり、アイデアを得たりするリソースとなることをめざしています。自分の教室にすぐに応用できる知識・アイデアを提供する本シリーズは、多様な読者の方々に対応できる内容となっています。たとえば、日本語教育に長年携わっている方々にとっては、ご自分の知識を整理、確認するのに使えるでしょう。一方で、日本語教育これから携わる方々や、経験が少ない方々にとっては、新しい知識や明日のクラスのための情報源となるでしょう。大学や教師養成機関では、副読本や参考書として使用できます。また、日本語教育関係者のみならず、英語教育・国語教育といった「ことばの教育」の関係者にとっても役立つ内容が、豊富に含まれています。

本シリーズには、以下のような特徴があります。

- ・ 専門知識がなくても内容が分かるように、専門用語を避け、やさしく説明しつつ、重要な点が分かるように書かれている。
- ・ 教室での実際の教育活動にすぐに役立つように、実践的、応用的な側面を強調している。
- ・ それぞれの TIPS の説明は短めで、素早く読める。
- ・ 必要に応じて、図・グラフ・表・フローチャートなどを入れ、内容を分かりやすくしている。
- ・ TIPS は、教育活動にすぐ応用が利く 77 本を厳選している。
- ・ 執筆者は、各分野の第一線の実践者・研究者である。

本シリーズの各書が提供する TIPS は、「知っておいてほしい」「知っておくと得をする」「知っておかなければならない」などの情報が満載です。本シリーズを通じて、日本語教育という分野の奥深さと幅広さを実感してくだされば幸いに存じます。

監修者

當作靖彦・横溝紳一郎

はじめに ㊦

本書内にもありますが、私は必ずしも自分から音声教育に進んだわけでもないし、それ以前に、自分から日本語教育に進んだわけではありません。しかし、教育とは直接、人に対して責任のある仕事なので、能力がないなりに、真摯に取り組んできたつもりです。その中で、学習者や同僚にいろいろほめられたり、感謝されたり、頼りにされたりすることで、自分が認められるようでうれしくて、さらに努力しようと思ってきました。

今でも、大学院浪人時代の本当につらかったことはずっと頭から離れません。お金に困っていたこともありますが、それよりも、誰も自分のことなんか気にかけていない、自分なんていなくなっても誰も気づかないんじゃないか、むしろ、いなくなったほうが迷惑をかけなくてすむんじゃないかと、ずっと自分の存在を認めることができませんでした。そんな自分が、日本語教育をすることで、ほめられたり、感謝されたりするのですから、うれしくてがんばらないはずがありませんでした。

しかし、ほめられたりするだけで満足したわけではありません。うまく教えられないこともたくさんあり、いや、うまく教えられないことのほうが多かったように思います。そのときは、自分で授業を振り返って考えたり、教材や参考書などを調べたりしました。その中でも音声教育は、いろいろ調べても納得がいかないことが多く、「自分が知りたいのはそんなことじゃない!」と、研究と教育現場のずれの大きさを常に感じていました。そのような思いから、音声教育の研究や実践を始めたように思います。また、それと同時に、生身の人間である教師の存在意義が最も問われるのも音声教育であり、そのためにも音声教育の研究や実践が重要だと思っています。

本書の執筆依頼をいただいたときに、音声教育で困っている教師に絶対に役立つものにしようと思いました。しかし、それは「明日の授業に役立つ」ことだけを指しているわけではありません。音声教

育で役立つものと言うと、こうやって教えるとうまく発音矯正できるというような方法が思い浮かびますが、それではうまくいかないことは、参考書を調べた経験などからいやと言うほど痛感しています。「唯一絶対の教授法はない」は、もちろん、音声教育にも当てはまります。明日の授業に役立つだけでなく、明日の授業について自分で考えるヒントになることや、あさって、しあさって、1年後、10年後、30年後の授業にも役立つことをできるだけ具体的に書いたつもりです。本書が、音声教育を実践するのをためらっている先生方の背中を押すのに役立ち、その結果、よりよい音声教育につながっていくことに貢献できれば、この上ない幸いです。

本書では、8つの外国語話者の日本語の誤用が扱われています。その録音にご協力くださった、外語ビジネス専門学校日本語学科、興和日本語学院、聖潔大学校日語日文学科、ミドルベリー大学日本語学校、国際交流基金カイロ日本文化センター、ヨルダン大学、学校法人 HIRO 学園のみなさん、金子真弓先生、水越隆之先生、相澤由佳先生、ポール・ガニエ先生、村上吉史先生、中山裕子先生、丸井合先生、川口直巳先生、奥村匡子先生ほかたくさんの方々に感謝いたします。また、そのほかの音声や映像、写真にご協力くださった方々にも感謝いたします。

監修者の當作靖彦先生、横溝紳一郎先生にも感謝します。コメントをいただきながら、「それはまだまだこれから研究と実践を通して明らかにしていくことであって、本に書くことはできないんだ!」というものがかなりありました。もっともっと努力して、少しずつでも感謝を形にしたいと思います。

最後に、なかなか執筆が進まない私を本当に温かく、かつ、的確にご支援くださった、くろしお出版の原田麻美さんに心から感謝いたします。

2014年2月

河野俊之

お読みいただく前に

本書の音声や映像は、以下の WEB サイトより配信します。

<http://onseik.9640.jp/>

(1) 音声について

本書では、日本語音声、外国語音声、日本語学習者の誤用というさまざまな音声が扱われています。特に、Chapter 4 では、「ぞうか」→「じょうか」のように、「本来、発音すべき日本語音声」→「日本語学習者の誤った音声」の順に掲載しています。「日本語学習者の誤った音声」は、上の WEB サイトをご覧ください。特に、Chapter 4 の「日本語学習者の誤った音声」は、単語や文を見せて実際に読んでもらったもので、誤りをあえて発音してもらったものは一切ありません。単語や文を読ませる方法は、ふだんの会話よりも、音声の誤用がかなり少ないことは経験上も言えますし、研究でも明らかになっています。このことから、Chapter 4 の「日本語学習者の誤った音声」は、当該学習者には、かなり誤りやすいものだと考えられます。

(2) 映像について

本書では、発音指導の際に分かりやすく伝えるための教師のジェスチャーや、学習者による学習の際の動きなどが紹介されています。それらは言葉による説明のみでは分かりにくいので、写真を多く用いています。しかし、ジェスチャーの多くは、動きを伴うので、写真だけでは分かりにくいものも多いです。そこで、上の WEB サイトに、写真に該当する映像を載せています。

本書での Tips ごとに、音声、映像をまとめていますので、本書を読み進めながら参照してください。

(3) 参考となる WEB サイトについて

Tips 42 で扱う国際音声記号の音声を実際に聞きたいときは、163 ページ末にも載っている、以下の WEB サイトを参照してください。

- ・「国際音声字母」

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/ipa/index.htm>

- ・「A Course in Phonetics」

<http://www.phonetics.ucla.edu/course/chapter1/flash.html>

- ・「Public IPA Chart」

<http://web.uvic.ca/ling/resources/ipa/charts/IPA1ab/IPA1ab.htm>

また、Tips 44 ～ Tips 59 の外国語音声を実際に聞きたいときは、226 ページにも載っている、以下の WEB サイトを参照してください。

- ・「東外大言語モジュール」

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/modules/index.html>

- ・世界言語研究センター「高度外国語教育独習コンテンツ」

<http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/flc/index.html>

(4) 免責事項

本書の内容および URL 等は、執筆時点(2014 年 2 月)においてのものであり、予告なく内容が変更されることがあります。

音声や映像の視聴に伴うソフトのインストール、設定変更によるいかなる損害についても、著者およびくろしお出版は、責任を負いかねます。

目 次

TIPS シリーズの刊行にあたって.....	3
はじめに.....	4
お読みいただく前に.....	6

Chapter 1 音声教育の実際について考えるための TIPS..... 11

1. 音声教育のニーズについて考えてみよう.....	12
2. 発音がいい学習者とはどういう学習者なのか考えよう.....	14
3. 発音への関心を持たせるにはどうしたらいいか考えよう.....	17
4. 音声教育の問題点について考えてみよう.....	20
5. 「何が違うか分からない」「方法が分からない」について考えよう.....	23
6. 「学習者にいやがられる」について考えよう.....	26
7. 「分かったけどできない」について考えよう.....	29
8. 「通じればよい」について考えよう.....	32
9. 「元に戻る」について考えよう.....	35

Chapter 2 自己モニターを活用した音声教育を考えるための TIPS.....39

10. 言い分けの独自の基準を考えよう 自己モニター 1.....	40
11. 聞き分けの独自の基準を考えよう 自己モニター 2.....	43
12. 聞き分けの練習について考えよう 自己モニター 3.....	46
13. 聞き分けの独自の基準作りについて考えよう 自己モニター 4.....	51
14. 言い分けの練習について考えよう 自己モニター 5.....	56
15. 発音チェックについて考えよう 自己モニター 6.....	61
16. 活動や教材を点検してみよう 自己モニター 7.....	66
17. e ラーニングを活用しよう 自己モニター 8.....	72

Chapter 3 プロソディーの教育を考えるための TIPS 77

18. プロソディーグラフの効果について考えよう.....	78
19. プロソディーグラフの描き方と使い方について考えよう.....	82
20. ヤマの重要性を理解しよう ヤマ0.....	86
21. ヤマを聞く練習をしてみよう ヤマ1.....	89
22. ヤマを言う練習をしてみよう ヤマ2.....	92
23. 短い文のヤマのルールを身に付けさせよう ヤマ3.....	95

